

神奈川県足柄上郡松田町議会

1 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

(1) 議会の改革を实践

平成16年6月定例会で、「議会政務調査費の交付に関する条例」を制定し、視察関係の特別旅費を段階的に削減するとともに、事務局職員の随行をなくした。現在は、政務活動費のみによる先進地視察で、議員の企画により行われている。

平成21年3月定例会からは、「町長等の反問権」や「審議した議案の賛否一覧の公表」を実施している。

また、平成22年9月定例会では、議会改革特別委員会を設置し「議員定数と各種懸案事項」についての審査を行った。そして、平成23年3月定例会で、定数については、委員会活動を確保できる最低人員の12名にするとともに、二重審議を避けるために総合計画審議会や国保運営協議会等の委員には、議員を選出しないことなどを議決している。

2 住民に開かれた議会

(1) 意見交換会を開催

住民から広く意見、要望を聞く機会を設けるため、また議会としての説明責任を果たすため、前年に続き2回目となる「自治会長との意見交換会」を平成24年11月21日に開催した。

1回目の平成23年度は、企画・立案・進行・運営は議員が行ったが、2回目の平成24年度は、企画・立案段階から自治会長も加わった。テーマを「自主防災会の役割」、「買い物弱者の救済」の2つに絞り込み前後半に分け、活発な意見交換が行われた。

前半の「自主防災会の役割」では、司会・事例発表を自治会長が行い、河内（かうち）自治会長が①自らが阪神淡路大震災の際、応急危険度判定士として携わったこと②河内自主防災会の活動について発表した。意見交換では、「要援護者に関するマニュアルづくり」、「発災時に役立つ防災訓練の実施」、「同報無線の難聴エリアの解消」など早急に解決すべき具体的な意見が出された。

後半の「買い物弱者の救済」では、司会・事例発表を議員が行い、新松田駅前の物産館について①販売状況②お客様からの要望について発表した。意見交換では、マイカーを持ってない方、高齢の方など外出ができない方の対策として、「商工会が多種類の商品を載せた巡回車両を運行し、町は、車両購入費や改装

費に対し支援を行う」、「一か所で買い物ができるように道の駅のようなイメージの施設を整備できないか」などの意見が出された。

この意見交換会で出された課題や提案を議員間で精査し「まちづくりに関する要望書」としてまとめ、町長へ提出し、できるものから実現するよう働きかけを行った。

（２）模擬議会を開催

当町で初となる「子ども議会」を平成24年8月23日に開催した。寄（やどろぎ）地区の小学校5・6年生14人と中学校1・2年生18人が議員となり、日ごろの学習などを通じて関心を持つ課題や疑問点について一般質問を行った。これは学習の一環として、自分の住む町を見つめ行政への関心と議会制度への理解を深めることを目的としている。

会議は、小学生の部と中学生の部に分け、それぞれ議長を選出し、議事を進めた。小学生からは、「寄地区の資源環境を守るための取り組みを教えてください」、「みやまグラウンドや遊べる場所にもっと遊具を増やしてください」など7項目の質問があった。また

、中学生からは「新しい商業施設をつくってください」、「観光を充実させるために、どのような対策をしていますか」など6項目、計13項目にわたる質問があった。これに対し、町長が、町の現状や取り組みを説明しながら各項目に分かりやすく回答した。子どもたちは熱心に耳を傾け、本会議さながらの議事進行が行われた。

傍聴については、議場傍聴席で20人、CATVに委託して別室でのテレビモニター中継で30人、計50人であった。この模様は、後日CATVで2日間にわたり録画中継された。

平成25年度は、松田地区の中学生を対象とし、26人が議員として登壇した。今年は再質問ができるようにしたので、町長や幹部職員の答弁に対し、その場で納得できない回答に対し、堂々とした持論を述べ再び質問する姿が何度か見られたことは頼もしい限りであった。

（３）議会への関心を高める方策、議会情報の公開

ホームページ、議会広報紙、町広報紙に議会の日程を掲載し、傍聴の啓発をしている。

また、議会ホームページにおいて、議会の審議結果や議会だよりなど、議会の情報を公開している。

（４）議会広報の充実

議会活動を町民に広く知ってもらうため、広報紙「松田町議会だより」を年

4回発行している。議会だよりは、昭和41年に創刊され、現在191号を発行している。編集にあたっては、議会広報編集委員会を6人で組織し、議員自らが責任を持って編集に参画している。

また、議案に対する議員の賛否を平成21年3月定例会分より掲載するなど、議会情報の積極的な公開に努めている。

多くの町民に親しんでもらうため、表紙の写真には「笑顔の住民をテーマ」に掲載しているので、全世帯配布後に、「実家に送りたいので、もう少し分けて欲しい」という声が寄せられるようになっている。

また、裏表紙には、「住みやすい町を目指して」と題し、活動されている地域の方や団体を主人公に寄稿を掲載するなど、わかりやすく、読まれ、親しまれる紙面づくりに心がけている。